

限られた経営資源を効果的に活用し、市民サービスを提供するためには、円滑にPDCAサイクル^{*}を回すことが重要です。市においても、どの程度のコストや人員をかけてどの程度の成果を上げたのかを振り返るとともに、より一層の成果を上げるためにはどうしたら良いのか、または、より効率的な行政運営を行うには何が課題なのかを振り返ることが必要です。

以下の図は、新公会計制度のイメージ（概念）を示しています。

^{*}PDCAサイクルとは、「計画(PLAN)」・「実行(DO)」・「評価(CHECK)」・「改善(ACTION)」という一連の活動を繰り返すこと。

広義の公会計（組織マネジメントへの反映）

P

- 部・課 仕事目標の策定
- 政策判断・事業採択
- 予算要求・審査
- 人員要求・審査
- 事業実施・見直し・廃止等の意思決定

A

- 原因の分析 ●事業実施状況の評価
- 事業部署内、全庁的な議論を踏まえた新たな施策の展開

評価 (実施状況の評価) 分析 (課題の原因)

議論 (認識の共有 解決策の検討)

今後の課題

反映

狭義の公会計（結果の確認）

D

各課・担当職員の業務

- 予算の執行・行政サービスの提供
- 日常的なモニタリング

C

- 決算数値の把握 ●事業実施効果の測定

『事業別財務諸表』

- ・課別財務諸表
- ・特定事業別財務諸表

『町田市の財務諸表』

- ・各会計合算財務諸表
- ・各会計別財務諸表
- ・部別財務諸表

課題の発見 (課題の裏づけ)

ミクロ分析 マクロ分析

信頼性の向上

説明責任の向上

監査等でのチェック

これまでの取組

議会・市民への情報提供